



令和 6 年度 宿泊施設向け持続可能な観光に かかる認証・ラベル取得効果実証事業

事業報告書概要

観光庁

2025年3月

事業名

令和6年度 宿泊施設向け持続可能な観光にかかる認証・ラベル取得効果実証事業

目的

国際的に持続可能な観光に向けた取組機運が高まっていることから、本事業においては、**持続可能な観光のラベルを取得することで、ビジネスに好影響を及ぼすのか否かの検証**をすること。

事業概要

- ① GSTC（グローバルサステナブルツーリズム協議会）研修の受講
持続可能な観光にかかる国際基準に関する知識を習得
↓
- ② ラベルの取得
持続可能な観光にかかる宿泊施設の認証・ラベルを取得
↓
- ③ ラベル取得効果の検証
売上等ビジネス面において好影響が生じるか否かのbefore/afterを計測

全国より持続可能な観光に関心をもつが、これまでは意識的にその取組を行ってきた訳ではなかった10の宿泊施設を選定し、持続可能な観光認証ラベル取得および検証を目指した。

1	鳥羽市	季さら
---	-----	-----



全室露天風呂付きの和モダンな宿。伊勢志摩の自然と調和したデザインと、環境負荷の少ない運営が特徴。

2	高山市	本陣平野屋
---	-----	-------



飛騨高山の伝統を受け継ぐ老舗旅館。地元の食材を活かした料理と、持続可能な観光を推進する取り組みを実施。

3	京都市	お花坊
---	-----	-----



東本願寺の正門前に位置する町家風の宿。伝統的な木造建築の趣を残しつつ、環境に配慮した運営を行っている。

4	京都市	都和旅館
---	-----	------



京都駅近くに位置し、家族経営の温かいおもてなしが特徴。地元の食材を活かした料理と環境に優しい運営を実施。

5	京都市	然林房
---	-----	-----



光悦寺や源光庵などの名刹が徒歩圏内にあり、四季折々の風景が楽しめる宿。伝統とモダンを融合したデザインが特徴。

6	京都市	綿善旅館
---	-----	------



創業180年を超える京都の老舗旅館。伝統的な京町家の風情を残しながら、持続可能な観光に配慮した運営を行う。

全国より持続可能な観光に関心をもつが、これまでは意識的にその取組を行ってきた訳ではなかった10の宿泊施設を選定し、持続可能な観光認証ラベル取得および検証を目指した。

7	豊岡市	但馬屋
---	-----	-----



城崎温泉の中心部にある純和風旅館。地産地消の料理を提供し、環境負荷の少ない運営を推進している。

8	倉敷市	旅館くらしき
---	-----	--------



倉敷美観地区の中心にある全8室の老舗旅館。江戸末期の道具蔵を改装し、伝統建築を生かしながら環境に配慮した運営を行う。

9	玉野市	UNO HOTEL
---	-----	-----------



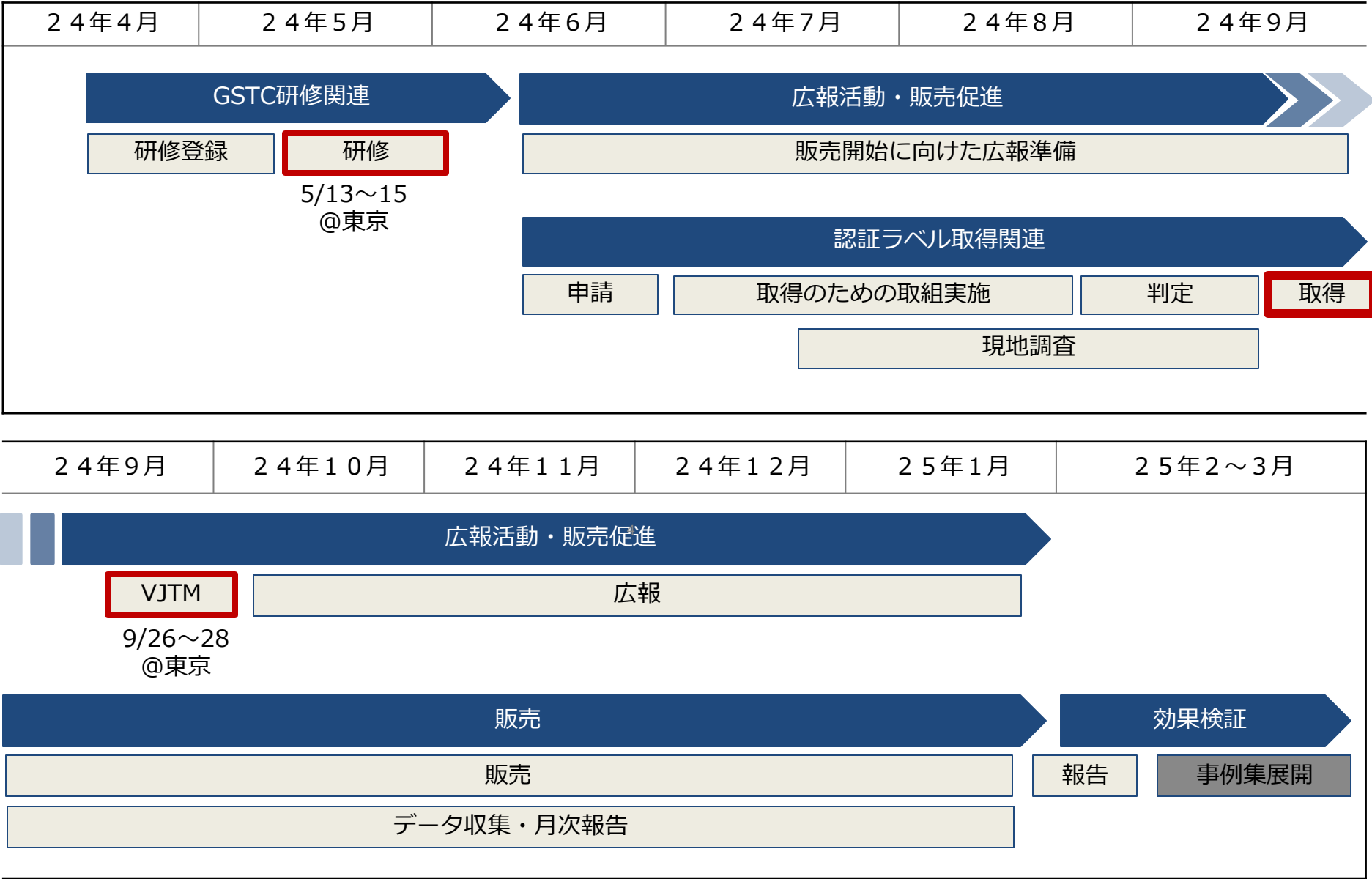
瀬戸内海に面したデザインホテル。地域活性化を目的としたプロジェクトを展開し、アートや環境活動に注力。

10	直島町	ろ霞
----	-----	----



瀬戸内海の現代アートの島、直島にある宿。ミニマルなデザインと地域文化を尊重した環境配慮型の宿泊体験を提供。

事業スケジュール



認証ラベルを取得するにあたり評価された取組

従業員の主体性と連携で築く職場環境

A4(従業員の参画)

チャットツール等を用いて従業員が自ら考えてそれを経営に反映できる機会を設ける。



古材と地元の素材で演出

A7.3(持続可能な施工及び資材)

内装には地元の古材や岩、和紙等をふんだんに使い、宿泊客にその地域を感じてもらうよう工夫。



地域の魅力を伝える徹底教育と情報提供

A6(正確な広告宣伝), A9(情報および解説)

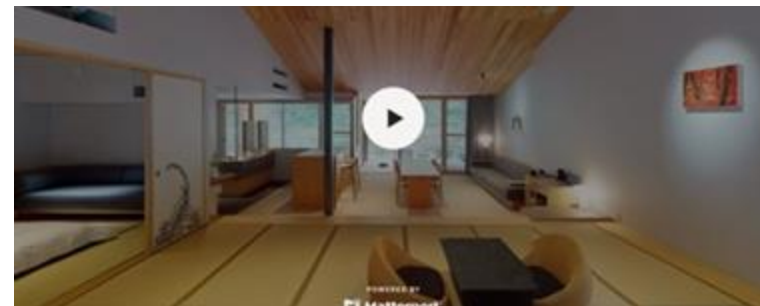
従業員に対して周辺の観光施設や近隣の飲食店や病院等の交通基盤まで丁寧に語れるように教育を徹底。



施設内のバリアフリー化と情報提示

A7.4(全ての人のためのアクセス)

身体が不自由な方へは従業員が介助。ウェブサイトでも3D案内図を表示し、伝わりやすく情報を提供。



認証ラベルを取得するにあたり評価された取組

地元事業者と地域の魅力を発信

B4(地元事業者)

地元漁師と地域では食用とされない魚を美味しく提供、障がい者アートを展示等、地域らしさを発信。



地域配慮と学生指導による良好な関係構築

B8(地域サービス), B9(地域住民の生活)

修学旅行受け入れによる騒音防止や通行に支障をきたすことのないよう、交通整理で学生を指導する。



従業員を大切にする職場づくり

B7(ディーセント・ワーク)

従業員の給与は周辺企業と比べて高水準とし、職場の徒歩圏内に休憩所を設けリフレッシュできるように。



伝統文化を守り地域とつながる取り組み

C3(地域文化や遺産の提示), C4(考古学的な工芸品)

地元の先生に師事を仰ぎ館内でお茶会を開催。煎茶道を通して地域とのつながりが生まれている。



認証ラベルを取得するにあたり評価された取組

環境配慮のための仕入方針と社員研修

D1.1 (環境に配慮した購入), D1.2(効果的購入)

ストローをガラス製に、シャンプー類は使い捨てのものを廃止。仕入方針浸透のため社員研修を実施。



廃棄物最小化とアップサイクル推進

D2.4(廃棄物)

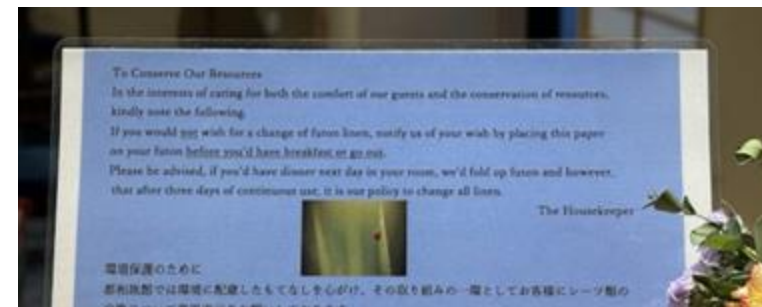
包装紙の端紙や機密文書以外の裏紙をメモとして再利用など、従業員の自主性を尊重した取組を実施。



環境配慮への取組を全員参加で進める

D1.3(省エネルギー)

環境への配慮とコストカットの目的から、照明の全館LED化。バックオフィス内に省エネを促す掲示。



野生生物との不要な接触を回避する対策

D3.4(野生生物との接触), D3.5(動物福祉), D3.6(野生生物種の採集および交易)

市街地に位置する宿のため、カラス等にゴミを荒らされないようにごみ処理を丁寧に行う。



取組を通して感じた変化

ホテルの信頼向上

- ✓ 予約数、ADRが対前年比で増加した
- ✓ 口コミ件数が大きく増加したにもかかわらず、評価が高いままであった

お客様の変化

- ✓ お客様から声をかけられ、認証ラベルについて話すことが増えた
- ✓ サステナビリティに関心を持つお客様が増えた
- ✓ 海外バイヤー向けの商談会で取得している認証ラベルについて話をすると、バイヤーが
関心を寄せて一気に話が進むことが増えた

スタッフの意識変化

- ✓ スタッフからの取組に関する提案件数が増えた
- ✓ 宿泊スタッフの多くが自主的にサステナビリティ関連の研修を受講

認証ラベル取得の取組で見えた課題

検討中のお客様へ十分に伝わっていない

⚠ 宿泊を検討しているお客様へ十分に認知を広げられていない

⇒ **告知方法の見直し**を行い、認証取得による認知度アップが必須と感じた

地域行政との連携が弱い

⚠ サステナビリティに関わる取組をより本格化するためには、地域ぐるみで取り組む必要があることを実感

⇒ 地域内の行政・観光協会・DMO等との**協力体制を強固にすることが必要**

できていないことが浮き彫りに

⚠ 指標をもとにチェックをすると、例えば地産地消でもメニュー内容によって全ての食材を地元産とすることは難しいことを痛感

⇒ 100%のサステナビリティを目指すことは難しいため、**できることが何かを確認し**、できるところを伸ばしていくことの重要性を学ぶ

海外バイヤー向け商談会出展で海の旅行業界関係者へ訴求

- 名称** VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2024
- 日程** 2024年9月26日(木)～ 28日(土)
※ ツーリズム EXPO ジャパン2024と合同開催
- 対象** 海外バイヤー 280 名程度、国内セラー 300 社
- 出展者** 6施設がサステナブル認証ラベル取得宿泊施設として2ブースに分かれて共同出展。



地域別の認証・ラベルに対する関心度

ヨーロッパ	一部の旅行会社はサステナビリティ認証を取得しており、一定の関心があるが、宿選定における優先度は低い。そもそもサステナビリティは「当然の基準」とみなされる。
アメリカ	サステナビリティへの関心度は人によって異なり、他地域に比べてばらつきが大きい印象である。
アジア	サステナビリティに対する関心が全体的に低い傾向。それよりも部屋の設備や施設の充実度が重視されている。

認証ラベルの有無と収益指標との関連性分析

目的

「Sakura Quality An ESG Practice」のサステナブルラベル取得前後の収益関連指標の変化を明らかにする

対象施設

認証ラベルを取得した事業参画宿泊施設

定義

本分析では、 $\text{売上} = \text{平均客単価} \text{ (円/人・泊)} \times \text{延べ宿泊者数} \text{ (人・泊)}$ とする

分析方法

取得の前後で 1) 平均客単価、2) 延べ宿泊者数 の変化を明らかにする

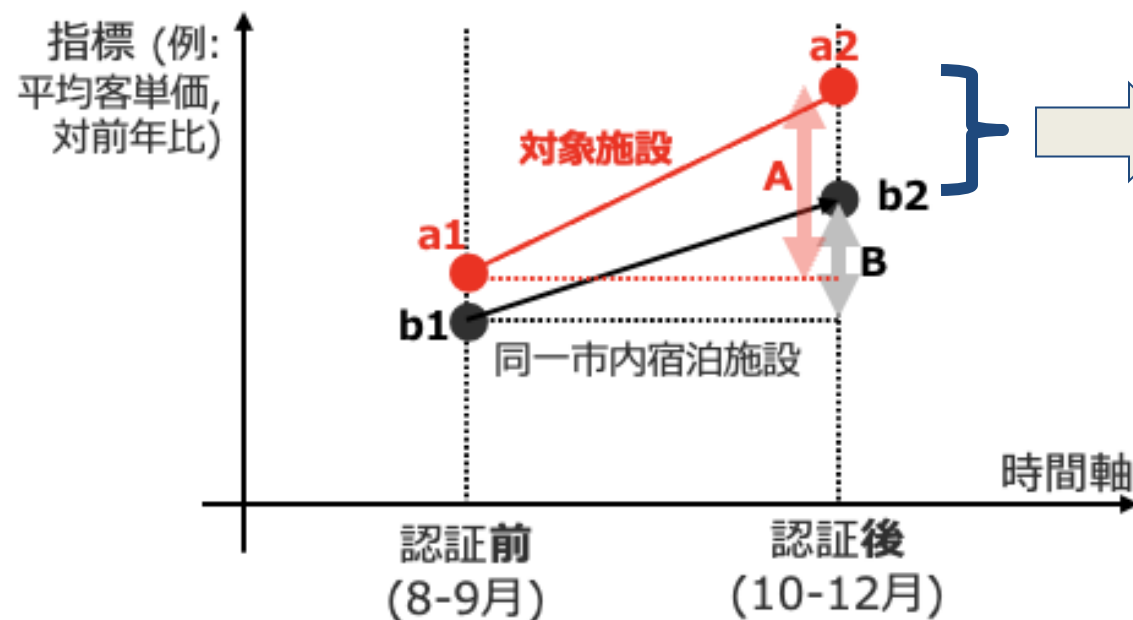
- 取得前後（取得は9月）で「対前年比（2024年/2023年）」の差分を確認する
- 対象施設の同一市内宿泊施設の指数と比較を行う

効果検証分析結果

$B = b2 - b1$: 宿泊施設全体の傾向 (例:物価やインバウンド増による単価上昇)

$A = a2 - a1$: 認証による影響も含まれる傾向

$A - B$: 認証ラベル取得による影響と仮定



分析結果

売上 +0.06

→ 認証は売上増につながる傾向

延べ宿泊者数 +0.05

→ 認証は需要増につながる傾向

少なくとも宿泊者が価格の上昇を容認できるポテンシャルを有し
経営にとってもプラスになるといえる

顧客アンケート結果（集計期間2024年10月～25年1月）

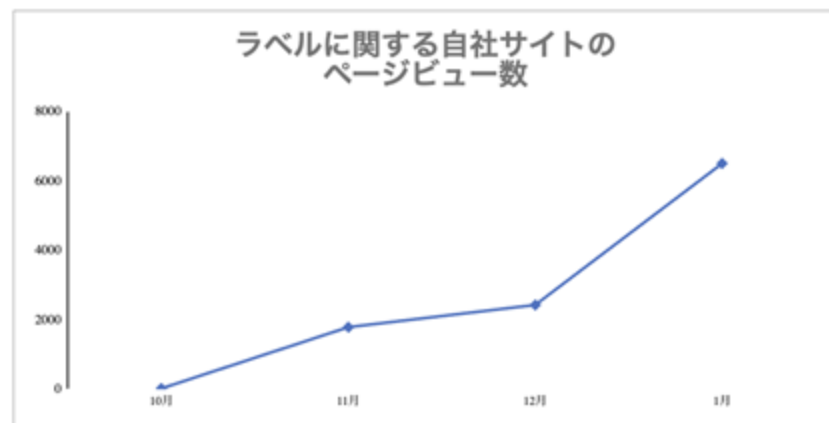
宿がサステナブルだと感じたと答えた人の割合 94% → +11%（集計期間）

主な理由

- ❖ 洗って再利用可能な最小限包装のアメニティ
- ❖ 節水対策
- ❖ シャンプーリンスを少量分の用意
- ❖ トイレットペーパーの使い切り
- ❖ 障害者アートの展示
- ❖ アメニティの脱プラの導入
- ❖ 地域の持続可能性を考慮した食事プラン
- ❖ 自然な地形を活かし静かな環境を保持

多くの宿泊者が、あらゆる場面でサステナビリティを感じている

施設取得データ平均値（集計期間2024年10月～25年1月）



自社HP



SNS



認証ラベルに対する人々の関心は、取得後も高まっていくと考えられる

効果検証分析結果

認証ラベル取得後のメディア等の反応

観光経済新聞

トップ > 地域観光 > 京都の4旅館が宿泊施設認証制度「サクラクオリティグリーン」の「3サクラ」取得

京都の4旅館が宿泊施設認証制度「サクラクオリティグリーン」の「3サクラ」取得

© 2024年12月14日 | 旅館宿泊 | シェアする | ポスト | LINEで送る | コメント

宿泊施設



認証証を手にする太田佳子さん（左）、小西崇文さん（中央左）、小野雅世さん（中央右）、馬淵龍雅子さん（右）

京都府内初の認証、他地域への波及も期待

旅館旅館、都和旅館、然林房、お花坊の京都市内4旅館は今年9月、観光品質認証協会運営の宿泊施設認証制度「サクラクオリティ」の「An ESG Practice 認証（サクラクオリティグリーン）」で、「3御衣黄（ぎょいこう）ザクラ」を同時取得した。京都府内の旅館の取得は初めて。認証取得により、欧米を中心としたESGやSDGsに関心の高い訪日客への訴求効果が期待される。

旅館宿泊

読売新聞



豊岡市、3段階目

SDGsの観点から、客室トイレのトイレペーパーについて2個を設置可能なホルダーに取り換え、最後まで使い切れるようにした。また、建材の地産地消のため、改装時に県内産の素材を使うなどしている。

認証の審査では、従業員が働きやすい職場づくりや地域との共存、駐車時のアイドリングストップのマニュアル掲載なども問われたという。

奥田社長は「認証の取得によって取り組みを可視化でき、宿泊客や従業員に説明しやすくなった。城崎をサステイナブルな温泉地としてアピールしていきたい」と話していた。

中日新聞

高山の本陣平野屋旅館、サクラクオリティグリーン取得 SDGs配慮の宿泊施設 認証

2024年12月14日 10時00分 | 12月14日 | 14時00分更新

高山市本陣の旅館「本陣平野屋旅館」が、持続可能な開発目標（SDGs）に配慮した宿泊施設であることを示す認証「サクラクオリティグリーン」を、県内で初めて取得した。



JAF



【会員優待施設】錦善旅館が「サクラクオリティ」認証を取得！ ～ 魅力を探りに行ってきました～

12月

「サクラクオリティ」は、持続可能な開発目標（SDGs）に配慮した宿泊施設であることを示す認証制度です。本陣平野屋旅館は、この認証を取得し、県内で初めて「サクラクオリティグリーン」の称号を得ました。

本陣平野屋旅館は、「サクラクオリティ」の認証を取得し、県内で初めて「サクラクオリティグリーン」の称号を得ました。本陣平野屋旅館は、この認証を取得し、県内で初めて「サクラクオリティグリーン」の称号を得ました。

錦善旅館のご紹介

観光に旅の心地！創業130年の老舗旅館

その他、北近畿経済新聞、マイナビニュース、テレビ大阪など多数

多くのメディアが注目する結果に